



新入学の季節ですね。我が家の子供達は、1、2年の時は皆、問題児とされました。保育園でのびのびと育ったので集団教育にはあつていなかったのでしょうか。先生に呼び出されたこともありましたが、私があり気にしないで聞いていたもので、先生から怒られたこともあり。子供は、私が呼び出されたので心配していましたが、変わりなく楽しい団欒を持ったので、ホッとしましたようでした。

先生も教育に熱心ですから指導するのは当然ですが、親は先生の味方ではありません。どんなことがあつても子供の味方です。子供が馬鹿なこと、活気盛んなことも、自分と同じように可愛くてたまりません。子供のいたずらや悪さのためだけに弁償したでしょうか。塾の費用よりも大きな影響を与えた社会教育費でした。

知識や情報を大事にすると情緒や情愛が廃れます。学校や塾通いに青春を費やしてしまうと、どうも満たされない感情はいつまでも続いて競争思考になるようです。人と優劣を競う人は、友人や家族との交流が難しいようです。挫折というのは、そういう面では大事なことだと思います。今までの自分の誇りをすっぱりと捨てて、やり直せば良いのです。人生は思いの他、長いように感じます。私なども挫折ばかり体験してきましたが、慣れてしまい、自分の成否はどうでもよくなってきました。

今日は春の嵐が荒れ狂っています。寒い冬にはおさらばです。苦しい日々が変わるためには嵐が吹き荒れても、必ず我慢していれば、春がきます。嵐を恐れて、寒い地方に逃げたいけません。木々の芽を探して御覧なさい。蕾がほどこけて、春に青々とした葉を広げようとしています。いろいろな人々のことを思い出しながら、涙が浮かんできます。周りの人が何をしても、本人が覚悟しないと、いつまで経っても、春の開花を迎えることができません。お説教ばかりになりました。心配な人は多くおります。逃げてはいけません。

柏崎久雄

\*

**感染症の疑いのある方は廊下の入口から**  
インフルエンザ、風邪、おたふくかぜ、はしか等が疑われる方は、正面入り口横の中央通路わきにあるインターホンでご連絡ください。院内感染を避けるためご協力ください。待合室も病態別に隔離して診察します。

\*

**保険の適用基準が改定し、4月から全てのビタミン製剤の栄養補給目的の処方には保険適用ができなくなりました。**疾患の特性による処方は認められますが、殆ど難しいようです。

\*

**18日(水)は院長が小中台小学校の入学児健診のため午後の診察は15時からとなります。**

\*

**「聖書を読む会」4月10日(火)2時〜2時20分**

\*

**食品に含まれる放射能値の測定を、当院患者さんとヨーゼフ会員に限定して有料で行っています。**詳細はパンフレットをご覧ください。

\*

感染症のための特別待合室と診察室には、強力な空気洗浄機を用意しましたが、幼児など触らないようにご協力ください。

\*

**麻疹風疹ワクチンの第3期(中1相当)と第4期(高3相当)は24年度で終了となります。**麻疹は春から夏に流行しますので、早めの接種をお勧めします。

\*

**ヨーゼフでは、腸内環境改善のための医師処方サプリメントを4月から販売を予定しております。**一部製品については、医師しか扱えないため医師処方に基づきマリヤ・クリニックでの販売となります。

## 《 保険医療と日本の医学 》

### 1. 病名と症候群

病気とは心身に不都合・不調が起こることですが、実際にはどういう状態を病気とするかは難しいところです。器質的疾患(身体の器官の異常による)、機能的疾患(身体の組織の働き方の異常による)、精神疾患などに分けられ、或いは感染性、自己免疫性、心因性などによる分け方もあるようです。

漢方医学で用いられた「未病」という言葉は、「病名をつけることのできるような状態ではないけれど、このまま何もしなければ確実に病気に向かっていく状態」を指します。また「未病を治す」という言葉もあって、漢方医学では未病の状態を把握して病気の発症を予防していくことができるとされているのです。

漢方医学だけでなく、代替医療はこのような予防医学の要素を持っています。日本では、保険医療の制約から病気になって病名がつけられないと治療ができませんでしたが、医療費の高騰によって予防医学の重要性が認識されてきています。小児肺炎球菌・子宮頸がん・ヒブワクチンなどのワクチンの接種やメタボリック対策が強調されてきたのは、予防医学の観点からでしょう。発病してから治療をするよりも発病しないように健康管理をする方が容易なのです。

身体的なものでも病気の原因をつかむことは難しいことがあり、病名がつかずに症候群として認められることがあります。重症急性呼吸器症候群 SARS や後天性免疫不全症候群 AIDS などはウィルス感染が判明しても、そのまま症候群と呼ばれ、川崎病などは原因が未だに不明ですが病名が付けられています。

精神病や神経症というものも、病名というよりも症状であり、統合失調症・そううつ病(双極性障害)・人格障害・パニック障害など、医師の所見により病名が付けられます。症状としては、妄想・幻覚・不安・恐怖・強迫・睡眠障害・うつなどがあります。ただ、精神症状をもたらすものが身体的要因による場合の治療方法については、解明が進んでいないように思われます。

そういう面では、マリヤ・クリニックが治療をしてきている機能的低血糖症も症候群的な病気であり、単に「血糖値が低い」という病気ではないことを、マリヤ・クリニックは解明し、発表をしてきました。マリヤ・クリニックでは、機能的低血糖症という症状の治療を、①血糖曲線、②インスリン分泌曲線、③ホルモンの分泌異常、④ある種のペプチドの脳などへの悪影響、⑤IgG アレルギー、⑥代謝異常、というように分析を進めてきました。これは、日本だけでなく世界的にも最も進んだものであると思います。

### 2. 保険診療

日本ではこれまで国民皆保険制度のもとに、誰もが治療費の3割くらいの低い負担で医療を受けることができました。このことは日本が誇る制度の1つでしたが、一方で病気になった時は医師にすべてを任せれば良いというので、「お任せ医療」とも呼ばれてきたのです。ところが、最近では国民の医療費を負担するための国の金庫が底をつき始めました。医療財政の破綻です。そのため国側が医療費を支払う上でいろいろな制約が設けられるようになりました。

医療機関が保険診療を行うと、レセプトという計算書を保険支払い基金というところに申請して国に医療費の支払いを求めます。この時、審査委員がその内容を検討して保険診療として適正ではないと判断すると、国からの支払い分(たいていは医療費全体の7割)が振り込まれず、医療機関は損をしまうわけです。この支払い基金の審査が大変厳しくなってきました。2012年4月から栄養補給目的では全てのビタミン剤の保険適用ができなくなったのも、この一環です。

日本の医療保険制度の下では、医師は「感冒」、「肥満症」、「高血圧症」、「アレルギー症候群」など、病名を付けることができない限り、保険診療をすることができません。ところが、一度病名が付けられると、病名が一人歩きして、その病名に基づく治療や投薬が続けられることとなります。頭痛を覚えて受診する時、本当は脳に腫瘍があるのに、最初「高血圧のためでしょう」というふうに診断されると、ずっと降圧剤を処方されることになるかもしれません。

ピロリ菌という細菌は胃潰瘍や十二指腸潰瘍の原因になることがわかっていて、胃がんの原因であることも疑われています。これに対して胃潰瘍や十二指腸潰瘍であることが診断された

場合は、菌の駆除に健康保険が使えるようになってきています。ところが、ピロリ菌の感染していることがわかっているにもかかわらず、胃潰瘍や十二指腸潰瘍になっていなければ、潰瘍や胃がんの予防のためには駆除のために保険が適用されないのです。

保険診療というのは、病名が付けられたら、検査も薬の処方も保険診療の基準に従わなければなりません。医療のマニュアル化で、最近その傾向は特に厳しくなっております。つまり、保険診療というのは、規格化された治療のために適切な制度で、予防や症候群的な症状の解明のための検査などには不向きなものであり、ガンなどの高度最先端医療にも保険は適用できません。

「それなら代替医療部分だけは保険ではなく、自費診療にすればよいのではないか」という考え方もあります。ところが、このことを「混合診療」といって、現在の保険制度ではこれも認められていないのです。つまり代替医療による診療を求めるなら、初診料から始まってすべてを自費診療で受けるしかありません。もっともこの混合診療の禁止も完全なものではありません。たとえば抗がん剤なども、まだ保険適用が認められていない新薬でなどを用いる時、その部分だけを自費診療にしてあとはすべて保険診療となっている場合もあるのです。また、差額ベッド代というものも本当はこの部分は自費診療であり、混合診療になるはずですが、それでもちゃんと国の保険は支払われているのです。それなのに、国民の要望の高い代替医療の利用に関して、なぜいまだに混合診療が認められないのかと考えさせられます。

### 3. 原因分析

レントゲンや CT スキャン、MRIなど数々の検査が導入されていますが、基本的にはこのような検査をしなくても、診察や触診、そして身体に害のない血液検査だけで、多くの病気は見つけられるのです。もっともそれは医師の能力と献身によるものであり、実際には難しくなってきました。もちろん保険診療制度のもとでは、このような医師の能力や技術は評価されません。つまり能力や技術が高いことが、収入には結びつかないのです。また、病気の原因解明の手段というのは、規格化された検査手段だけでは不十分な場合もあるのです。

実際に、私たちのクリニックでは他の医療機関ではわからなかった多くの患者さんの病気を発見し、原因を見出し、さらに治癒しています。よそでは治らなかった数百人という患者さんが、私たちのクリニックに来て治っています。むしろ、そのために科学的なデータがなければなりません。私達は、それで日本では検査できない IgG アレルギー検査(血液)や代謝機能の結果を調べるための OAT 検査(尿)、ペプチドの検査(尿)を行っています。

精神疾患の分野は、現代医学のアキレス腱です。患者数は増大する一方ですが、ほとんどの精神疾患の診断は、他の医科のように客観的に見分けがつけられる検査データではなく、医師の所見(主観)によってなされています。この分野には血液検査や脳波形といった数値でわかる生化学的・病理学的な数値としての決定的な証拠がありません。精神の状態というものを物質に置き換えて科学的に評価することはできないのです。

このように精神疾患は検査データという裏づけがないために、本来は内科などの診療科を受診すべき患者さんまで、精神科の治療を受けるという例が少なくありません。極端な言い方をすれば、青春期の悩み、失敗によるうつ、無理解による興奮、カフェイン摂取による不眠、栄養不足や摂食障害による感情の変動、不眠や病気による頭重・頭痛などの訴えは、精神疾患でなくても起こりうることです。精神科を訪れば抗精神薬や抗うつ剤などの過剰な医療を受けることになる可能性もあるでしょう。

もちろんその逆に、「眠れない」、「頭痛が続く」、「体がだるくて仕方がない」といった訴えの裏側にうつ病などの精神疾患が潜んでいることがあります。内科を受診した患者さんが「何も異常はない」という診断を受けて、「自分の体調は回復しないのだ」と絶望して自殺するといった例もしばしば耳にすることです。

### 4. 治療法と医療機関の環境

前述のように、病名が付かないと保険診療はできませんが、病名が付くとその病名にあった治療法しか認められません。入院施設のある病院では、看護師などの人数が揃わないと保険診療ができなくなる場合もあり、それらの趣旨はわかるのですが、まずは保険適用の条件を満たすということが、全てのことにも求められます。

医療機関の果たすべき条件や環境は厳しくなる一方、患者さんの要求やクレームも多くなり、問題の起こりそうな小児科や産婦人科の医師は少なくなってきました。また医療環境や技術の整った大都市の最先端病院に医師が集中する傾向があります。検査や治療も患者さんとの問診や触診、或いは医師の経験や専門的能力による診察というよりも、専門的技術者と高度医療器械による検査情報による流れ作業的な医療になりつつあります。医療の水準を維持するために必要なプロセスなのかもしれませんが、患者さんの訴えや心情的な状況を診るということが少なくなり、特に精神病や神経症などに問題をもつ医療状況となってきたことは否めません。他方、人気のある医療機関には患者さんが殺到して待ち時間が長くなり、その医師やスタッフの過重労働となり、医療の質が落ちてしまうというジレンマもあります。

## 5. マリヤ・クリニックの改善点

マリヤ・クリニックでは診察の改善に関して、現在は以下の対策を取っています。長時間お待ちの方がおられることは存じ上げておりますが、少しずつ対応し改善していく予定です。

- ① 診察室を3か所に分散し、それぞれの症状の患者さんを速やかに診察するようにしている。
- ② 管理栄養士が患者さんに事前問診や診察方針の説明をし、そして診断や検査結果、そして処方の説明を担当し、スムーズな診察を心がけている。各部署で患者さんの待ち時間がわかるようにしている。
- ③ 待ち時間にDVDプレイヤー(6台)を貸与し、治療法や検査方法の説明を理解してもらっている。
- ④ メールやFAXや手紙により患者さんが来院しなくても、対応できる体制を整えている。
- ⑤ 感染症の為の待合室を別に用意し、更に感染症の種類別にコーナーを設け、強力な医療用空気洗浄器を設置している。
- ⑥ 待合室を広く設け、テーブルで家族でくつろげるようにし、幼児コーナーも設けている。更に他の患者さんを気にする騒ぐお子さんのための特別待合室を用意している。
- ⑦ OGTTなどの長時間の検査のために控室を2つ用意している。
- ⑧ 高濃度ビタミンCなどのための専用点滴室を用意している。

## 6. マリヤ・クリニックの特徴

日本で最初の分子整合栄養医学に基づいた医療機関として、身体にダメージを与えない検査と治療を心がけています。方針としては、対症療法というよりもその根本的原因を突き止めることにより、治療をしようとしていますので、体調が悪いことを治していくうちに不妊症が治ったり、アレルギーが治ったり、お肌がきれいになったりすることがあります。しかし、その人にあった個体差を重視した医療なので、原因解明には時間と手間が掛かります。むろん地域に根差す医療機関として、通常の医療もしておりますが、保険では診察できない場合があります。

低血糖症や自閉症の治療を行っていますが、これは分子整合栄養医学的な治療なので、申し訳ありませんが、保険診療では対応することができません。

### 《 診 療 時 間 》

月曜～金曜 (午前 8 時 30 分～12 時 10 分、午後 2 時 30 分～5 時 30 分)

土曜 (午前 8 時 30 分～12 時 10 分、午後 2 時～4 時)

休診日 木曜、日曜、祝日、年末年始

- ・ 各種健康保険取扱機関
- ・ 介護保険取扱機関
- ・ 結核予防法指定機関
- ・ 身体障害者認定医
- ・ 各種健康診断
- ・ 生活保護指定機関
- ・ 特定疾患取扱機関
- ・ 自立支援医療機関
- ・ 小中台小学校校医
- ・ 栄養療法(分子整合医学)



(携帯サイトへ)